

## 【優秀賞】

団体名	市立前橋高等学校地域活性化プロジェクト「めぶく」
活動の内容（概要）	行政・地域・経済界などの協力を得ながら、市内で活躍する人々への取材や市内企業でのフィールドスタディ等のインプットにより市の活性化に向けた課題を考え、その解決への提案を模擬市長選挙や市議会出席、学習成果発表会での研究発表等の場でアウトプットする。これらの探究学習を通じ、地域活性化に取り組んでいる。

### 受賞理由

- 前橋市が設置する唯一の高等学校として、市や教育関係機関、商工会議所など前橋市全体の協力・支援を受けながら、体系的なキャリア教育を実施している。
- 教科指導等で得られた知識・技能等を活用しつつ、総合的な学習の時間を中心とした探究学習の実践に対して、地域の行政も含め、商工会議所等様々な団体が協力をしている。高校における総合的な学習の時間の展開がなかなか難しい状況もある中で、地域学習としても非常に良いプランであり、レベルが高く汎用性の高い取組である。
- 進学を希望する子供たちが多い普通科高等学校において、3年間を見通して、教育委員会だけではなく、首長部局や経済団体、産業界を巻き込み、単なる出口指導ではない取組として、今後、いわゆる進学校におけるキャリア教育の1つのモデルになり得る。
- 都市集中化が今問題になっている中、集中化を軽減するような意味でのキャリア教育という目的意識が重要である。

### 連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

前橋市教育委員会 共愛学園前橋国際大学 前橋工科大学

【行政や地域・社会、産業界等】

前橋市政策推進課・産業政策課・未来の芽創造課・選挙管理委員会

前橋市市議会 前橋商工会議所 群馬県経済同友会 前橋市明るい選挙推進協議会

前橋中心商店街協同組合（インタビュー受入）

前橋市内各企業（フィールドスタディ受入） 株式会社マイナビ

### 活動開始の経緯

【活動開始時期】平成27年～ 【継続年数】5年

平成27年より選挙権年齢引き下げが法制化され、高等学校における主権者教育の充実が求められた。そこで本校では前橋市の協力を受け、主権者教育にて、模擬群馬県知事選挙を実施した。年ごとにその形態をバージョンアップさせていたが、平成30年度1学年から、新学習指導要領をにらんだ地域活性化プロジェクト「めぶく」に発展させた。

### 「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

首都圏にほど近い前橋市は近年、全国的に起きている少子高齢化に伴う人口減少が進んでいる。特に高校を卒業した若者たちが地元から離れる傾向が顕著であり、その対策が喫緊の課題である。地元就職の割合が半数以上を占めている専門高校（商業・工業など）の卒業生は、地域発展のために貢献しているが、9割以上が進学をする普通科高校は卒業生の首都圏への流出が激しい。

この課題を踏まえ私たちは、普通科の高校生に、いつ、どのように何をすると前橋市に目を向けてくれるかを、地域の大人たちが共に考え、共通認識を得て、チームとして高校生にアプローチする必要があると考えた。例えば、昨年度から始まった「ミライバシ」という、前橋市と（株）マイナビが協力する進路イベントはその一例である。昨年9月に実施した第1回では市内の企業、大学・専門学校などが40団体以上集まり、高校生をターゲットに活動や取組の紹介が行われた。しかし、高校側との事前協議が行われなかったため、見込んでいた高校生の参加が非常に少なかった。

そこで今年度は前橋市・マイナビと事前に協議を重ね、高校生が参加しやすい日程と実施方法を探り、動員総数2,000名を超える非常に大きなイベントとなった。

### 「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

産学官連携による包括的な若者支援の構想（プラットフォーム）が前橋商工会議所、前橋市内各大学、前橋市により、平成30年度から事業案の策定に入った。本校は前橋市が設置する唯一の高等学校であることから、これまでも前橋工科大学や共愛学園前橋国際大学などとの高大連携を充実させていたが、「めぶく」は高大産学連携の発展に貢献できる内容となっている。今後もこのプログラムに則って、高大産学官が共通認識を保ち、長期にわたり連携を深めていけると考えている。

### 「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

普通科高校である本校の卒業生は95%以上が上級学校へ進学する。そのうち80%ほどの生徒が大学進学を希望しており、およそ50%の生徒が県外大学へ進学する。

（株）マイナビの調査によると、来春卒業予定の群馬県内出身の大学生・大学院生のうち地元就職を希望する人の割合は、41%で全国平均を8.8ポイント下回っている。そのうち、県内在籍者は63.6%が地元就職を希望しているのに対し、県外は28.2%と大きな差があった。この数字が地方における少子高齢化の要因の一つになっているのは明らかである。

確かに群馬から世界や日本を支える人材が輩出されることは嬉しいことである。しかし、生まれ育った町を支える大人たちが様々な立場で活躍していることを知る教育活動を地域一体となって創出することが、将来の地域を支える力になり、地方活性化、少子高齢化対策へつながるであろう。

### 「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

本校は前橋市が設置する唯一の高等学校として、本校生徒がよき市民に成長するための人間性を育むことが求められている。地域活性化プロジェクト「めぶく」は、前橋市各部署との連携が綿密な連絡・調整の下に図られ、地域の大人たちがどのように社会を形成しているかを「インプット」する機会となっている。市内中心商店街インタビュー、市内企業フィールドスタディにおける生徒の感想には”地元再発見”のコメントが多数見られ、この取組に関する企業からの反応も非常に前向きであった。また、昨年度実施した模擬前橋市長選挙に協力していただいた前橋工科大学とともに、「第9回



<生徒たちが市内中心商店街の現状把握のためにインタビューをしている様子。>

人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 前橋」にて本校生徒が研究発表を行い、非常に高い評価を得た。

今年度、まえばし学校フェスタ 2019 という前橋市の学習成果発表会、市議会議員に協力をいただき前橋市高校生模擬議会を実施した。探究学習の成果を地域の方々に目にいただき、生徒たちは「アウトプット」をすることで、「思考力・判断力・表現力」を磨くことができた。また、地元テレビ局や新聞社を通して、より多くの県民の方々に新学習指導要領における3つの学力観に沿った本校の取り組みをPRしていきたい。多くの地元の方が本校の取組を知ることが新たなつながりを生み、新たな価値観を創造するであろう。



<市内企業フィールドスタディにて、企業担当者の方から説明を受けている様子。>

### **学校現場の評価・感想・コメント**

- この地域活性化プロジェクトにより、これまで行ってきた学校行事や総合的な学習の時間の取組を機能的にまとめることができた。
- いくつか新しい取組も行っているが、クラスでのグループワークや少人数の班別行動が中心となっているので、リーダーシップの育成に効果が出ている。
- 先生方の時間的負担は極力抑えられているが、担当の先生方のファシリテーターとしての能力が試される。

### **関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど**

- このプログラムを通して、前橋市の設置する高校としての意義が深まった。この12月に前橋市市議会にて前橋市高校生模擬議会が開催されることも、非常に楽しみである。（市議会議員）
- 産業界と高校生がつながる機会をいただけたことで、地元の企業の有効性を伝えることができた。雇用につながるかは未知数だが、「知る」ことがこれからの地域活性化の第一歩になるだろう。（市内フィールドスタディ参加企業）